

五十嵐太郎  
東北大学大学院教授／建築学  
市田真理  
第五福竜丸展示館学芸員  
内山大介  
福島県立博物館学芸員  
香川檀  
武蔵大学教授／表象文化論・近現代美術史  
加藤幸治  
東北学院大学教授／民俗学  
蔵屋美香  
東京国立近代美術館企画課長  
五野井郁夫  
高千穂大学教授／政治学・国際関係論  
小林めぐみ  
福島県立博物館学芸員  
高橋佳代  
広島平和記念資料館学芸員  
藤井光  
美術家・映像作家  
本間宏  
福島県文化財センター白河館まほろん学芸課長  
吉野高光  
双葉町教育委員会総括主任主査兼生涯学習係長／  
元双葉町歴史民俗資料館学芸員

Hikaru Fujii  
Artist, Filmmaker  
Ikuo Gono  
Professor at Takachiho  
University / Political Theory  
and International Relations  
Hiroshi Honma  
Academic Section Manager  
at the MAHORON,  
Fukushima Cultural Property  
Center, Shirakawa Branch  
Mari Ichida  
Curator at the Daigo Fukuryu  
Maru Exhibition Hall  
Taro Igarashi  
Professor at Graduate  
School, Tohoku University /  
Architectural History and  
Critic  
Mayumi Kagawa  
Professor at Musashi  
University / Study of  
Culture and Representation,  
History of Modern and  
Contemporary Art  
Koji Kato  
Professor at Tohoku Gakuin  
University / Folklore studies  
Megumi Kobayashi  
Curator at the Fukushima  
Museum  
Miika Kuraya  
Chief Curator at the National  
Museum of Modern Art,  
Tokyo  
Kayo Takahashi  
Curator at the Hiroshima  
Peace Memorial Museum  
Daisuke Uchiyama  
Curator at the Fukushima  
Museum  
Takamitsu Yoshino  
General Chief Manager for  
lifelong learning in Futaba  
town and former-Curator  
at History and Folklore  
Museum Futaba-Machi

# Symposium

## Memory and representation of catastrophe – the potentiality and responsibility

シンポジウム

### 厄災の記憶 その表象可能性

平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2017  
福島交流・発信プログラム 震災・大事故と文化財を考えるプロジェクト

Symposium  
Memory and  
representation of  
catastrophe  
– the potentiality  
and responsibility

# 厄災の記憶 その表象可能性

シンポジウム

東日本大震災、および東京電力福島第一原子力発電所事故は様々な領域においてこれまでにない対応を迫った。従来、中長期的なプロセスを経て保管されていた考古資料・民俗資料といった文化財(モノ)が、原発事故に対する緊急措置である文化財レスキューの活動により、避難指示区域から搬出され、仮の収蔵場所に移動された。現在、市民の帰還政策と併せ、避難指示解除区域の文化財は元の地域への帰還が準備されつつある一方、帰還困難区域の文化財はその目処が立っていない。同時に震災遺産の収集は進んでいる。

本シンポジウムは、特に福島の文化財の状況を、地域の問題に限定せず、フクシマ後の文化財と文化をめぐる制度について考える場としたい。福島県内外で文化財や災害の記憶の継承に携わる学芸員・研究者らが一堂に会し、各自の専門領域から、震災から6年が経過した福島と文化財をめぐる議論する場である。

なお、本シンポジウムは映像作家・藤井光が撮影、映像作品とし、震災後に文化財・文化が置かれた状況を伝えるアーカイブとなることも企図する。

日時 10月5日(木) 15:00-18:00  
会場 いわき芸術文化交流館 アリオス 中劇場  
住所 〒970-8026 福島県いわき市平字三崎1-6  
(JRいわき駅から徒歩15分、  
常磐自動車道いわき中央ICから車で10分)

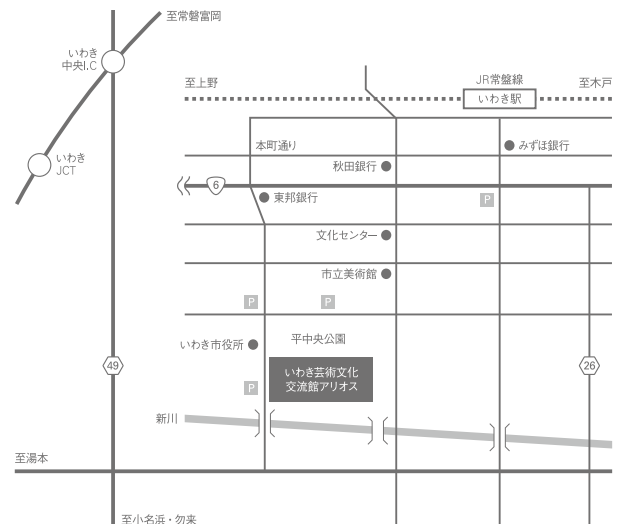
参加費 無料  
事前申込 不要

主催 はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト実行委員会  
協力 「寄留者たち」実行委員会、カディスト美術財団  
企画・撮影 藤井光

平成29年度  
文化庁地域の核となる  
美術館・歴史博物館支援事業



はま・なか・あいつ  
文化連携プロジェクト



## [お問合せ]

はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト  
実行委員会事務局  
〒965-0807 福島県会津若松市城東町  
1-25 (福島県立博物館内)  
TEL 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)  
\*毎週月曜日、祝日の翌日は休業  
FAX 0242-28-5986 (福島県立博物館内)  
\*はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト  
HPのお問合せフォームも御利用ください

## [はま・なか・あいつ文化連携プロジェクトとは]

福島県立博物館が福島県内の大学、文化施設、NPO等との連携により2012年から実施しているアートプロジェクト。はま(福島県の太平洋側)、なか(東北新幹線、東北自動車道が貫く福島県の中央部)、あいつ(新潟県に隣接する福島県の山間部)で展開する活動を通して、福島の文化・歴史・自然の豊かさを再発見すること、福島が抱える課題を共有し共に考える場を生み出すことを目的としています。2017年度は、7つのプロジェクトを実施。詳しくはこちら▷ [hamanakaaiizu.jp](http://hamanakaaiizu.jp)